

発行／公益社団法人山梨県看護協会 〒400-0807 甲府市東光寺2丁目25-1 TEL(055)226-4288 FAX(055)222-5988
発行責任者／佐藤悦子 印刷／有限会社クリップ

2022 迎春



甲府市／甲州夢小路



甲府共立病院

笑顔 スナッ!

このような時だからこそ、目の前の患者さんのために私たちは笑顔でいたい! 新たな一年が希望の年となりますように...



命をはぐむ力... 9階産婦人科病棟



「患者さんの物語り」をかたりあう総合診療病棟



保健予防活動を支える仲間 総合健診センター



甲府共立病院を支える看護師長たち

Contents

令和4年新年を迎えて 山梨県看護協会会長 佐藤悦子	— 2
看護功労者・県民の看護師さん表彰	— 3
特集 コロナに負けるな	
訪問看護師と潜在看護職の取り組み	— 4~5
東京2020オリンピック・パラリンピック	
メディカルスタッフの活動報告	— 6~7
日々成長する“新人看護職”の現状と抱負	— 8~9
うちの職場自慢 その64	— 10
シリーズ 看護研究のコツ No.25	— 10
ナースのママ・パパ奮闘記 No.51	— 11
Topic&Information	— 11
令和3年度 理事会報告	— 12
INFORMATION／編集後記	— 12

**山梨県看護協会への
入会手続きはお早めに!!**



山梨県看護協会会員数 5943人 (令和3年12月12日現在)

令和4年新年を迎えて



公益社団法人 山梨県看護協会
会長 佐藤 悦子



令和4年の新年を迎えました。皆様には日頃より看護協会事業の推進に深いご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症への対応で終始したこの2年、会員の皆様にはご尽力をいただき本当にありがとうございました。この功績に対し、山梨県より看護協会に対しコロナ感染症対策の特別感謝状をいただきましたことをご報告させていただきます。

コロナ禍において私たちは、命の尊さ、当たり前で暮らせる生活のありがたさ、人と人とのつながりの大切さ等々、改めて深く考える機会をたくさん得ることができました。一方で人々が安心して安全に暮らすために、この状況下で見えてきた課題も数多くあります。今私たちは、危機をチャンスに変えて行動することを求められているのではないのでしょうか。

看護専門職能団体への社会からの期待は、さらに高まっていると痛感しております。会員一人一人の力を看護協会という組織の中に結集させ、山梨県民の健康とより豊かな生活の向上に一丸となって貢献できるよう活動していきたいと考えております。ぜひ、ご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

昨年11月から12月にかけて、看護協会と各地区支部の「看護管理者等意見交換会」を開催いたしました。多くの皆様にご出席いただきありがとうございました。意見交換会の中では、新型コロナウイルス感染症対策を各施設がどのようにとっているか情報共有を行い、横の連携の強化を図ったこと、人材の確保のために柔軟な働き方への工夫、外国人や看護補助者の雇用、次世代の担い手を確保するために中・高等学校へ出かけていくまたは病院に招いて看護の魅力をアピールする等々、その取り組みの一端を情報交換し今後の取り組みについて語り合うことができました。課題は山積しており、看護協会としてやらなければならないことのご示唆を具体的にいただくことができました。

令和3年度の事業もおかげさまで着々と進んでおります。今後もさらに会員の皆様の声を聴きながら、看護協会としての役割が推進できますようひとつひとつ取り組んでまいります。今年が、穏やかで明るい年となりますように、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



コロナ対策特別表彰されました。

令和3年11月25日に山梨県より、看護協会は宿泊療養や退所後ケアで患者の健康観察を実施し、ワクチン接種会場に潜在看護師を派遣。人材バンクへ看護師の登録を促進したとして、コロナ特別感謝状が贈呈されました。



「看護功労者」20人・「県民の看護師さん」6人表彰 おめでとうございます



11月11日、県と長田ふるさと財団及びフェスタ看護実行委員会は、「看護功労者」20人と「県民の看護師さん」6人の表彰式を行いました。

例年5月12日の看護の日を含む看護週間中に、看護大会において表彰式を実施していますが、コロナ感染症対策のため、令和2年度に引き続き、看護大会を見合わせ表彰式のみ実施しました。



お祝いの花束とナイチンゲール刻印入りのクリスタルペーパーウェイトを、実行委員長の看護協会佐藤会長より贈りました。

Congratulations!



令和3年度 看護功労者

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 戸倉 由紀 昭和町役場 | 近藤 秋子 飯富病院 |
| 宮下美恵子 道志村役場 | 外川 秀美 特別養護老人ホーム寿荘 |
| 小田切いのり 甲府市役所 | 浅松 明美 市立甲府病院 |
| 秋山 三和 まつざきクリニック | 一瀬 貴子 山梨県立中央病院 |
| 中嶋 君枝 山梨大学医学部附属病院 | 塩沢 静子 社会福祉法人園樹会向徳舎 |
| 古屋 塩美 山梨大学医学部附属病院 | 志村 節子 社会福祉法人いきいき倶楽部
コスモグループ |
| 秋山小枝子 甲州ケア・ホーム | 中澤 緑 甲府城南病院 |
| 吾妻 輝美 加納岩総合病院 | 並木奈緒美 ゆうき訪問看護
ステーション |
| 古明地文子 塩山市民病院 | 鈴木貴美江 回生堂病院 |
| 新田恵美子 日下部記念病院 | |
| 山下 修 山梨厚生病院 | |

第26回 県民の看護師さん

- 井上和代子 ますほ訪問看護ステーション
- 宿澤ゆかり 甲州訪問看護ステーション
- 鶴田文美香 市立甲府病院
- 窪川 佳世 山梨大学医学部附属病院
- 高取 美香 山梨県立中央病院
- 和知えり子 甲府共立病院

26人の皆様
おめでとうございます。





新型コロナウイルス感染症に対する 訪問看護の取り組み



新型コロナウイルス感染症の新規感染者が全国で拡大し、山梨県内でも8月に入りデルタ株の影響で、1日当たりの感染者数が連日過去最多を更新し、病床使用率も50%を超えました。そのまま推移すると入院病床の不足も懸念され自宅療養を余儀なくされるなど県民の命に関わりかねない過去にない重大な局面が続きました。県は、全ての感染された方を入院又は宿泊療養施設において療養できる体制を維持する方針でしたが、そのまま拡

大していくと、病院と施設では収容しきれなくなる恐れが現実のものになってきました。

そこで、山梨県看護協会と山梨県訪問看護支援センター及び山梨県訪問看護ステーション連絡協議会が共催して、陽性者の自宅療養という状況に備えて、県内の訪問看護ステーションすべてにアンケート調査を行いました。

COVID-19

アンケートの結果、多くの訪問看護ステーションで「状況が整えば対応可」の回答がありました。しかし、その中には「感染予防対策に対する不安がある」という回答も見られました。

そこで、アンケートの不安等の意見を踏まえ、訪問時の感染予防対策の徹底を図ることを目的とした研修会を県内訪問看護ステーション60事業所を対象に8月20日に開催しました。講師は、在宅看護専門看護師2人が担当し、感染予防対策として各事業所1人の参加に限定をして、35事業所の代表者が参加しました。



会長挨拶

内容

- 1) 新型コロナウイルス感染症に対する感染予防の基礎知識
- 2) 個人防護具の取り扱い演習

動画を視聴して各自事業所で準備した個人防護具(PPE)の着脱の演習を通して、訪問時における確実な感染予防を再確認しました。

参考資料：新型コロナウイルス感染症 訪問看護師による自宅療養者への対応マニュアル作成委員会
「新型コロナウイルス感染症 訪問看護師による自宅療養者への対応マニュアル(第2版)」



個人防護具着脱の演習

研修後のアンケートの感想では、「分かりやすかったが、実際行ってみると戸惑ってしまった。事業所内で練習してスタッフに統一して、その時には生かせるようにしたい。」「状況が変わるとにこのような研修をして欲しい。」「明日は我が身です。入院できず亡くなる方が出ないように精いっぱい頑張りたい。」などの感想がありました。

今回のアンケートと研修を開催したことにより、地域包括ケアシステムを担う訪問看護師の現状や課題も把握でき、コロナ禍における訪問看護の役割を果たせるように支援できたと思います。

潜在看護職のみなさんの活躍状況

離職時等の届け出制度「とどけるん」での山梨県の登録者は、2,334人（2015年10月開始以来総数）うち、未就業として把握している看護職は611人(令和3年9月末現在)です。

山梨県ナースセンターでは、この届出情報をもとに復職のための情報提供や就業相談、仕事の紹介斡旋などの支援を行っています。

今般の新型コロナウイルスワクチン接種の担い手確保の一環として、「新型コロナウイルスワクチン接種にかかる研修会」を開催したところ、193人が受講しました。このうち離職時の届け出制度「とどけるん」への登録者は128人、うち69人(令和3年10月22日現在)が、県や市町村、職域接種を行う企業などでワクチン接種業務に従事し活躍されています。

【eナースセンター】
新型コロナウイルス
感染症関係紹介就職者
令和3年4月1日～10月13日現在

就業場所	内容	就業人数
企業(3企業)	ワクチン接種(職域接種)	20人
軽症者宿泊施設	健康観察・有症状時の対応等	15人
保健所	積極的疫学調査	2人



求人登録は
eナース
センターへ

各施設で、潜在看護職の活用を考えている場合は、山梨県ナースセンターの無料職業紹介「eナースセンター」に求人登録をしてください。



山梨県ナースセンター「eナースセンター」への登録時のポイント!

1. 施設情報の登録

eナースセンタートップ画面の「求人施設のご登録」ボタンをクリックし、必要事項を登録し、ユーザID、パスワードを取得してください。

※メールアドレスをお持ちでない場合、ナースセンターまでご連絡ください。

2. 求人情報を登録

取得したユーザID、パスワードを入力しログインした後、施設情報、求人票を登録します。

※施設情報や労働環境等、施設の特徴、魅力、強みを紹介文章欄に具体的に明記し、求職者にアピールしましょう。

※一言PR欄には、業務内容、働き方(働く時間、日数、短時間可など)に関する情報を入れてください。

3. 簡単求職者検索と看護職への直接オファー

条件に合致した人材を検索することができます。

また、eナースセンターのシステムを通じて求職者へ直接メッセージを送信でき、人材確保のチャンスが広がります。

※eナースセンター上での求人登録施設からの求職者への直接問い合わせと応募について対象となるのは施設からのオファーを希望している看護職の方のみです。



お気軽に山梨県ナースセンターにご相談ください。
TEL 055-226-0110

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 メディカルスタッフへの協力をしてくださった 仲間の声をお届けします。



笛吹中央病院 看護部長 雨宮 栄子



新型コロナウイルスの感染拡大によって、1年延期となりましたが、万全の準備をした中、2021年7月23日～8月8日オリンピック、8月24日～9月5日パラリンピックが開催されました。

活動場所は、パラリンピックの選手村分村、河口湖レクホテル内の救護所、8月30・31日の2日間、15:00～24:00までの夜勤対応、自動車競技ロードレース選手の救護にあたりました。しかし、私の対応日には救護所を利用する選手はいませんでした。救護所内にリハビリスタッフ・針灸師が常駐しており、ロードレース前後の筋肉疲労の回復を希望する選手が多く来室していました。オリンピック中は、現地スタッフとの交流の証に、ピンバッジやユニホームの交換をすることがあるそうで、人と人との繋がりのすばらしさに感激しました。また選手の方の行為で、銀メダルを持たせていただきました。努力した結果の重さは計り知れないものを感じ、とても貴重な体験をさせていただきました。オリンピックは平和の象徴・3年後のパリ開催を楽しみにしています。

大月市立中央病院 猪野 愛花

今回はコロナ禍でのパラリンピックであり、更に変異株による感染拡大が騒がれる中、参加することに対して正直不安はありました。それでもメディカルスタッフとして協力したいと思ったのは、日本で開催される大会の裏方として携わることができるまたとない機会であり、また高校生の頃アスレティックトレーナーに憧れがあり、この機会にスポーツ医学に関わりたいと感じたからです。

配属先は選手が宿泊する施設の医務室でした。開会前の活動であったため利用者はいませんでしたが、スタッフ同士で普段の仕事の情報交換をしたり、利用時のシミュレーションをしてお互いの役割を再確認したり、短時間でチームワークが高められる交流ができました。



笛吹中央病院 遠木 恵美

東京2020パラリンピックへのメディカルスタッフについては上司の勧めにより参加しました。実際に河口湖分村入りしてみると、語学力の必要性を痛感しました。しかし自身の語学力の乏しさよりも、選手たちのパラリンピックを楽しみたいという気持ちの強さを感じました。また同時に選手のセルフケア能力の高さや、ハンディキャップがあっても自分の人生をどのように楽しむかという姿勢を垣間見た気がしました。メディカルスタッフを通して、「その人がその人らしく生きること」の意味を考える機会となったと思います。入院患者様に対しても「その人らしく生きること」をこれからも大切にし、医療チーム一丸となり患者様のサポートをしていきたいと思っています。



大月市立中央病院 宮下 美和

看護師として働き6年が経ち、様々な場面で多くの医療従事者が活躍している姿を見て、自分にも出来る事はないだろうかという思いから、今回の活動への参加を希望しました。

活動はホテル内に設置された医務室で行いました。各国の選手団の宿泊施設で、選手団全員が受診可能です。競技中に受傷してしまった方や宿泊中に体調不良を訴える方の診療介助、発熱している場合は医師や大会関係者の方と、感染対策を行い客室へ訪室して診療を行いました。

様々な場所から集まった医療従事者の皆さんと協力し、受診に来た方の安心した表情や、多くの笑顔を見られた事に、やりがいや喜びを感じ、自分自身も改めて挑戦する事の大切さを学んだ3日間でした。



ルに対し医療・ケアは安全に運営する事有意義でした。ポラ礼儀や感謝の気持ち来る選手も、帰りはやはりオリンピック経験をさせて頂き感



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における医療サービス【メディカルスタッフ】として、富士東部地区を軸に、その他志願者をつのり、本県からは11人の看護職が協力してくださいました。コロナ禍、様々な意見や心配もある大会でしたが、従事してくださったみなさまから、様子を報告していただきました。



鍼灸師・理学療法士・医師など全国から集まったメディカルスタッフと



医務室の一部。すぐに対応できるように準備しています。

山梨県立中央病院 塚原 史枝

現在、山梨県立中央病院の病棟で勤務しています。臨床の場では他国で医療を受ける外国人患者が、医療の違いに直面している姿をみる機会があります。海外生活の経験や大学院での外国人医療の研究を、パラリンピックで日本を訪れる外国人の医療提供の場で活かせたらと思い、活動に応募しました。活動場所は、選手が滞在するホテルの医務室でした。選手やスタッフが医務室を利用する事はなかったのですが、隣室のフィジカルセラピーを利用する他国のスタッフへの案内を行いました。メディカルスタッフと協力しながら活動を実施した事で、チーム医療の楽しさを改めて実感しました。今後も様々な形で外国人医療に携わっていきたいと思います。

北杜市立甲陽病院 奥山 はるみ 写真右

左/医務室で夜勤の看護師さん(左)と
右/支給されたユニホームなど



修善寺サイクリング村医務室にメディカルスタッフとして参加しました。主な活動内容は、整形外科医師が行う各国選手の練習中の怪我や体調不良、診療等の補助です。印象深かったのは、理学療法士の専門知識の深さ、技術力、志の高さでした。全国から集結した精鋭達がチームとなり、アスリートの身体のメンテナンスを行いとても喜ばれていました。四肢切断や麻痺、運動制限がある場合など障がい者スポーツの奥深さを知りました。開催国としておもてなしの精神を感じ、英会話の必要性を実感しました。参加を後押ししてくれた総師長をはじめ病院の方々に感謝しています。



市立甲府病院 小泉 恵理子

看護部から依頼を受けメディカルスタッフとして協力することになりました。参加登録時には医療資格証はもちろんJPTEC等の資格の添付もありました。またメディカルスタッフ用e-learningの案内もあり直前に閲覧し、オリンピック開催を実感したのを覚えています。配属されたのは河口湖にある選手村分村医務室。ホテルの施設を利用した小規模施設で、看護師は3交代勤務でした。マッサージを希望する選手が多く、選手からGodHandと呼ばれたマッサージ師がいるほどでした。3日間の活動でしたが貴重な経験を出来たと思っています。

KYO 2020

上野原市立病院 高橋 亜矢子

私はスポーツが好きです。今回、自国開催のオリンピックに関わる活動をしたいと思い医療ボランティアへの参加を志望しました。

私は、選手村(滞在ホテル)で医師・理学療法士・通訳の方などと、海外選手のボディートラップ活動をしました。コロナ禍で制限が多い中、関係者に力を注ぎ、同じ目的を持つ人々との活動は楽しくボランティア活動は、ルールを守る事、挨拶をする事、を忘れない事が大切です。心配気な表情で医務室に明るい顔になり私も自然と笑顔で手を振りました。・パラリンピックは平和の祭典です。今回は貴重な謝します。

山梨県立中央病院 齊藤 大空

メディカルスタッフとしてオリンピック・パラリンピックに参加できたことは夢のようでした。実際の活動は、選手の負傷や体調不良への対処で選手にはベストパフォーマンスを発揮してもらいたいと思いながら治療にあたりました。選手がロードバイクで一斉にスタートする姿は躍動に満ち溢れ、そして最後まで走り切った後、お互いに健闘を称える姿は感動そのものでした。各国の選手とのコミュニケーションには苦労しましたがみんな明るく気さくでした。選手たちがそれぞれの人生の最高の舞台となるお手伝いのできたことや選手たちの情熱を間近で感じることができたのは、私にとっても貴重な体験です。

都留市立病院 渡辺 美鈴



8月20・26・27日、河口湖にあるホテルで、パラリンピックの診療所看護師として大会に参加させていただきました。コロナ禍で参加には賛否も葛藤もありましたが、自分自身の視野を広げたいと思った事や、一生のうちに経験出来ないかも知れないと思い参加を決めました。

スタッフは日本全国の医療従事者が集まり、実際に県内で活動している方は少なかった印象があります。活動した日は試合前だった事もあり、主に身体のメンテナンスとしてマッサージを行う選手が診察に来ていたため、選手と関わる時間は多くありませんでしたが、大会の裏側を垣間見る事が出来、大変貴重な経験をさせていただきました。





日々成長する"新人看護職"の現状

看護人材確保・育成

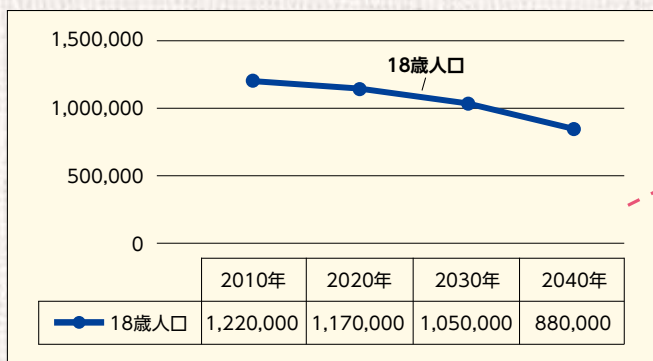
～若年層にアプローチが必要～

今後10年間(2021～2030年)では、75歳以上人口が増加するなど高齢化はさらに進展して、医療・介護需要の増加が見込まれます。

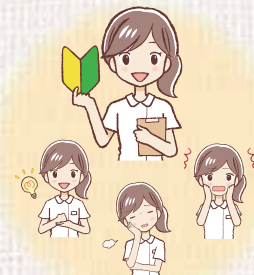
一方で将来の看護を支える若年層については、2018年の18歳人口が約118万人に対して2030年には約101万人まで減少が見

込まれ、さらに直近の年間の出生者数が約92万人(2036年に18歳到達)であることから、その後も減少していきます。

現在、看護師国家試験の合格者は約5.5万人であり、これをキープしていくためには、2030年には18歳人口の18人に1人に、看護の仕事を選択してもらう必要があるわけです。



18歳人口は、2030年には105万人、2040年には88万人まで減少することが見込まれている



文部科学省 2017年
「高等教育の将来構想に関する基礎データ」

一つ一つの関わりを大切に

山梨大学医学部附属病院4北病棟 助産師 武持 舞



大学四年生の春に新型コロナウイルスの流行が本格化し、リモート講義や課外活動の禁止などこれまで当たり前だった大学生活が大きく変わりました。特に看護実習への影響は大きく、予定されていた実習の半分はオンライン・学内演習となりました。就職にあたって一番不安だったのは、例年と比較して実際の患者と関わった経験が少ないまま助産師となったことでした。現在、先輩スタッフの声掛けを参考にしながら日々寄り添った看護を目指して頑張っています。先日には初めて担当看護師として患者と関わり、信頼関係を築くことや継続的な支援を行うことの大切さを学びました。妊娠・出産は女性と家族にとって特別な出来事ですが、コロナ渦では入院中の面会や立ち合い出産の制限、感染への不安から周囲の人々とつながりが持てずに孤独を感じやすい状況です。少しでも安心して過ごして頂けるように、助産師としての知識や技術を磨いて丁寧に関わってまいります。



新生児室勤務の様子

コロナ禍における中で自分なりの看護との向き合い方について

甲州リハビリテーション病院 看護師 五味 春花



私は、新型コロナウイルスの影響で臨地での実習をあまり経験できずに就職しました。入職当初は、業務を覚えること、病棟スタッフとの人間関係を大切にすること、患者さんとの関わりを大切にすることに精一杯になっていました。また初めて経験することも多く一年目としてなかなかうまくいかず悩んでしまうこともありました。しかし、これまで積み上げてきた学習や技術練習の経験に加え、日々の学びを振り返りながら業務を行うことでできることが増えてきています。まだまだ、うまくいかないことも多い中で、プリセプターを始めとする病棟スタッフの方々が自分の納得いくまで熱心に指導して下さり、わかりやすくアドバイスしてくれるので自分なりの看護について考えることができています。リハビリ看護については、退院後の生活を見据えて関わる難しさもありますが、日々患者さんのリハビリ成果を見ることで、少しずつやりがいも感じ始めた今日この頃です。



新人研修の1コマ

と抱負

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学業や実習等の制約を余儀なくさせられるなど、様々な困難を乗り越え、看護職としてのスタートをきった、新人看護職のみなさんに現状や抱負等を述べていただきました。どうぞ、先輩看護職のみなさま応援よろしくお願い致します。



コロナウイルス感染症対応を通して考えたこと

山梨県中北保健福祉事務所健康支援課
保健師 七澤 耶々

新型コロナウイルスが猛威を振るい、大学での対面実習も思うようにできないまま社会人一年目を迎えました。入庁後、保健所に配属となり、コロナの健康相談や疫学調査等に従事しながら、保健師の専門性をどのように発揮していけば良いのかと悩みました。

これまでをふり振り返り、想像力をもって対応する重要性を感じています。電話で決まった項目を聞き取ることに当初は精一杯で、陽性患者やその家族の思いや置かれている状況を考慮できませんでした。しかし、陽性患者の不安の声や家族の思いを伺うなかで、身体・心理・社会面をアセスメントし、それぞれの思いに寄り添いながら対応することが、保健所保健師の専門性に繋がってくるのではと考えるようになりました。限られた時間や情報の中で対応しなければならず判断に迷うことも多くありますが、適宜、先輩職員に相談しながら対応してきました。

相手の状況を想像しながら関係性を構築し、必要な情報を聞き取り、健康観察や医療機関等につないでいく、その業務に現在ではやりがいを感じています。これまでの経験を糧に、相手の思いに寄り添った支援をこれからもしていきたいと思います。



健康相談場面



コロナ禍での看護を通じて考えたこと

都留市立病院 看護師 笠井 美奈

コロナ禍で就職するのは不安でしたが、当院では入社時にコロナ禍での感染対策や患者、来院者への対応を丁寧に教えて頂き安心しました。そのような中、コロナの影響を強く感じるのは面会制限です。家族と会えず活気を失くす患者や、患者に直接会えない為に患者の病状を心配する家族などもよく見かけます。そのため、患者の療養中の思いを家族に伝えたり、家族からの患者へのエールを忘れずにお伝えすることなどを心がけています。また、一番傍で患者をサポートする看護師が患者と家族の悩みや不安を傾聴し、両者がコロナ禍であっても納得のいく看護が受けられる環境にしていきたいです。コロナ禍において一層、患者と家族の関係をつなぐ架け橋になることを意識して働いています。しかし、就職したばかりで足りない知識や経験がまだまだたくさんあります。今後も日々の学びを活かし、どのような環境であってもその患者に適した看護が提供できる看護師になりたいです。



パソコンで看護記録を入力しているところ



どんな状況でも看護師は学び成長出来る

白根徳洲会病院 看護師 遠藤 浩士

新型コロナウイルスが流行し始めた頃、私自身は大学4年生だった。学校生活も総合実習が校内実習になったり、講義がオンラインになるなど沢山の制限がかかった環境の中で学ばざるを得なくなった。臨床実習が出来ない中で不安を抱えながら卒業し、2021年4月1日、白根徳洲会病院に入職した。4月に同期入職した看護師の中には全く実習に行けていない人も多く、それぞれが多くの不安を抱えてのスタートであった。

4月1日から2日間の集合研修があり、その後7日間の看護部新採用者研修を新卒看護師6人の仲間を受講した。感染対策を設け実務から講義形式まで56時間の研修であった。その後6月末まで6部署を2週間毎に院内ローテーション研修を経験し、7月から私は急性期病棟に配属された。患者さんとのコミュニケーションや技術の習得に関して不安は大きかった。しかし、先輩看護師の指導や職場の雰囲気助けられ、入職前の不安も徐々になくなっていった。日々学ぶことが大切な看護職は、入職したときの前向きな気持ちを忘れずに自身のキャリアアップを目指して、学び成長する事が大切であると感じている。



業務にも慣れ、日々やりがいを持ちながら患者さんを受け持っています



明日の健康は住民と共に!! 葦崎市役所 保健師一同

葦崎市は県の北西部に位置し、古くは武田発祥の地、最近ではノーベル生理学・医学賞受賞の大村智先生や東京オリンピック銀メダリスト文田健一郎選手の出身地としても誇り高い市です。

私たち保健師は市民に寄り添い日々の業務を行っています。安心して子育てが出来るよう子育て支援センター（にら☆ちび）と協力し相談体制を整え、また産前産後ケアにも力を入れています。高齢期では介護予防や、最期までその人らしく生活できるよう地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組みを進めています。しかし昨年度からは新型コロナウイルスという課題が出てきました。葦崎市は感染予防対策やワクチン集団接種等保健師だけではなく市役所職員全員の力で乗り越えてきました。保健師も事務職も市民一人ひとりの声に耳を傾け、丁寧で誠実な対応を心がけています。そして安心安全でその人らしい生活が送れる葦崎市を目指しています。今後も「明日の健康は住民と共に!!」を胸に、「チーム葦崎」で活力あるまちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。



生涯現役!ツインズ 私たちの未来予想図 医療法人峡南会 峡南病院 看護部

当院は富士川町鯉沢に位置する40床の小さな病院です。3割の職員が富士川町に在住し、地域密着型の病院を目指し日々頑張っています。

我が看護部の中にも富士川町在住で勤続40年以上の双子のベテラン准看護師が勤務しています。古い事から新しい事まで何事も良く知っている・頼りになる・悩みもきいてくれる・患者さんのことも驚く程良く知っている等々、ともに働く若い看護師からも賞賛の声。先日こんな場面も、「あの人のおばさんが〇〇さんの妹で・・・」と私には判らない会話ですが、町内に在住しているからこそ持っている情報です。患者さんにも優しく、諭すように話し、患者さんからも信頼されています。外来では「まだ2人は働いているけ?」と患者さんに聞かれることも度々です。

また、驚くことに2人とも夜勤専従看護師なのです。「体の動くうちは、働きますよ。健康のため3食しっかり食べます」「どこでもすぐに寝つく」等々とても70才には見えません。とにかく良く私たちの話を聞いてくれますし、アドバイスもしてくれます。人生経験豊富な大先輩の2人を見習いながら、挨拶はしっかりと・思ったことははっきりと・いつも明るく元気な姿で、この3つを胸に秘めながら日々患者さんのケアに取り組んでいます。

最終回

シリーズ看護研究のコツ 結びにかえて



山梨看護学会委員会
担当/浅野 浩子
(山梨大学大学院総合研究部)

山梨県看護学会委員会では、山梨県内の看護職の研究推進支援の一環として、平成26年(2014年)1月より、やまなし看護協会ニュースに「シリーズ看護研究のコツ」と題して、情報提供を行ってまいりました。これまでに24回の連載を重ねてきましたが、このほど完結させていただき運びとなりました。看護研究について、少しでも会員の皆様のお役に立てたのであれば幸いです。過去の記事では、研究の進め方や、発表方法、論文のまとめ方など、看護研究に関連したテーマを考え、委員全員で記事を推敲し掲載してまいりました。山梨県看護協会ホームページに「アーカイブズ シリーズ看護研究のコツ」として掲載しております。興味のある記事から読むことができますので、どうぞご覧ください。これまでシリーズ看護研究のコツをご愛読くださりありがとうございました。私どもは、今後も引き続き、皆様が所属施設内での発表や数多くの学会での発表に向けて、看護研究に意欲的に取り組まれるよう、支援を推進する所存です。なお委員会では、皆様からのご意見・ご要望をお待ちしています。これからも山梨看護学会委員会をどうぞよろしくお願いいたします。

ナースの ママ・パパ 奮闘記

周囲の人に支えられ、日々感謝しながら、夫婦ともに看護師として、子育て・看護の両立に頑張る角島さんです。



家族でそろってお出かけ

感謝の気持ちを忘れずに

山梨厚生病院 角島 由香里

誰かの支えになりたいと看護師を目指しました。看護師として働きだし18年目となりました。その間に2回出産し現在10歳と2歳の娘がいます。夫も同じ病院で看護師として働いています。お互い同じ看護師であり育児、家事にとっても協力的です。また夜勤のときは両親にも協力してもらいとても助かっています。年が離れているので上の子が下の子の面倒をよく見てくれます。日曜、祝日も仕事でないこともあり、寂しい思いをさせているとは思のですが「いってらっしゃい」と笑顔で送り出してくれます。家庭と仕事の両立は本当に大変ですが、家族の理解「お互いさま」の職場環境、患者様の「ありがとう」と言葉に支えられて今まで頑張ることができています。

コロナのため制限されていることもたくさんあります。病院では面会が制限されて患者様は家族と会えない時間が多く不安な日々を過ごしています。子供達は遊びに行きたくても行けず我慢を余儀なくされています。一日も早くコロナが終息し制限のない生活を送れる日が来てほしいと心から願っています。

感謝を忘れず、今を大事にこれから自分に出来るベストを尽くしていきたいです。

Topic & Information

市立甲府病院「地域医療支援室」における地域医療連携の強化の取り組みをご紹介します。

患者の意志を尊重した シームレスな連携を目指して

市立甲府病院 総合相談センター
看護支援係 看護師長
中込 久美子



地域包括ケアシステムの構築・強化が図られる現在、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるように退院支援が強く求められています。しかし新型コロナウイルス感染症の蔓延は退院支援に大きく影響がでています。これまで退院支援の際には、患者さんや家族、院外の他職種と面会し状況を直接確認することで支援することができていましたが、コロナ禍で面会ができない体制となってしまいました。

コロナ禍が続く今、患者さんが安心して入院生活を送ることができるように、タブレットを利用し家族やケアマネジャーと患者さんをつなぐオンライン面会を行っています。今後は、メールやオンラインでの面談などICTの活用の整備も検討しています。

今後も地域のケアマネジャーや訪問看護師との連携強化を行い、退院支援に取り組んでいきたいと思っています。これからは顔の見える関係づくりを心がけ、院内外の職種がoneチームとなり患者の望む暮らしをシームレスに支えていけるように取り組んでいきたいと思っています。



MSWとの患者支援カンファレンス

第6回

令和3年11月9日(火)

協議事項

1. 訪問看護ステーション等組織規則の一部改正について
2. 令和3年度補正予算について
3. 令和4年度日本看護協会改選役員・推薦委員候補者の推薦について
4. 日本看護協会長表彰候補者・日本看護協会名誉会員候補者の推薦について
5. 令和3年叙勲祝賀会について

山梨県看護協会 INFORMATION

■ 令和3年度 看護講演会実施

「2040年に向けた看護に期待すること」

【講師】 神奈川県立保健福祉大学

理事長 大谷 泰夫氏

【日時】 1月31日(月) 2時から3時30分

ハイブリッド形式で行います。

Zoomが苦手な方また環境が整わない方は、来館してください。看護協会のホームページから、お申し込みください。

参考になる講演会です。
ぶっただ先生のお話を
楽しみにしてください。

2040年頃に向け、社会状況はどのように変化するのか。その中で何を特に注視すべきか。

国民(県民)の保健・医療ニーズに応えるため看護はどうあるべきか等…、2040年に向けた地域に必要な看護の拡充に向けて、学び、考える機会としたいと思います。

■ 令和3年叙勲祝賀会

コロナウイルス感染防止対策のため執り行いません。



公益社団法人山梨県看護協会

令和4年度 通常総会は
令和4年6月17日(金)午後を
予定しています。



■ 2022年度の入会・継続の手続きが 始まっています

2021年度会員の皆様には、日本看護協会から「継続のお願い」が郵送されますので、お手元に届き次第ご開封ください。会員情報に変更がない方は、手続き不要で自動継続となります。情報を変更される方は、早めにお手続きをお願いいたします。

新規入会時や会員情報の変更をする場合、手続きが完了するまでに、1~2ヶ月ほどかかる場合があります。「申込書/会員情報変更届」の記入に間違いがありますと更に入会までの期間が伸びてしまいます。せっかく手続きをしていただいても、サービスを受けられる期間が短くなってしまいますので、記載内容を十分ご確認の上、ご提出くださいますようお願いいたします。

「継続のお願い」や「申込書/会員情報変更届」には記入方法が同封されています。ご存じの内容でも、再確認のためご一読くださいますようお願いいたします。

お気に入りの一枚

ほっと!
いやされて

猫のママと人間のママが大大大好き甘えん坊な我が家の王子様♥お得意の狩りでたまにネズミのプレゼントをしてくれます! サプライズありの愉快的な毎日で猫愛も増すばかりです。

※このコーナーでは、会員の皆様から「お気に入りの一枚」を募集しています。ペットに限らずご提供よろしくお願ひします。

送信先: senm@yna.or.jp 広報担当



投稿者: 笠井ひかる
(山梨県立中央病院)
杉山チーコ 3才

【表紙スナップ】 甲府共立病院

長い歴史と揺るがない理念「命の病棟」を掲げ、断らない急性期医療を担っています。

患者さんをSDHの視点でとらえ、チーム一人ひとりの力を大切にしながら「患者さん・地域・職員が幸せになる病院」を目指しています。



編集 後記



新年明けましておめでとうございます。

今年度も皆様のご協力により発刊することができ、心から感謝申し上げます。

コロナウイルスに負けないよう、感染対策を徹底し、充実した一年を送れるよう共に力を合わせて歩んでいきましょう。

皆様からのご意見ご要望をお待ちしています。随時、お寄せください。